

100大学の映画部結集

新型コロナウイルスの影響で、活動が制限されている全国の大学の映画部や映画サークルが協力してオムニバス映画「突然失礼致します！」を製作した。約百校の映画部などが、「希望」をテーマにそれぞれ一分以内の映像を撮影。集まった百七十六作品をつなぎ合わせて百九十分のオムニバス作品に仕上げた。コロナ禍にあっても短編なら撮影できると企画され、「沈みがちな日本を明るくしたい」という思いをこめた。インターネットで公開している。

(清水大輔、写真も)

コロナで活動制限

参加した愛知学院大(本部・愛知県日進市)の作品は、若者が銃を手に「自衛警察」に立ち向かうストーリー。映画部の三年、大崎稜典さん(三)「名古屋市区」が主役を務めた。営業を続ける店などが「なぜ、自衛しない」と批判を受ける世相に、違和感を抱いていたという。「閉塞感を打ち破りたい気持ちを表現した」と語る。

新型コロナウイルス感染拡大を受け、全国の大学は四、五月に休校した。映画部や映画サークルは授業再開後も、大学構内への立ち入りが制限されたり、部員が集まれなかったりと、作品製作がままならない。

群馬大四年で同大映画部部長の熊谷宏彰さん(三)は四月、「撮れなくて悔しい思いを抱える全国の仲間たちと何かできないか」と、

学生入魂 オムニバス映画

映画製作の苦労を振り返る愛知学院大映画部員ら(中日新聞社で)



オムニバス映画の製作を思いついた。すぐに会員制交流サイト(SNS)を通じ、全国の大学の映画部などに参加を呼びかけた。

北海道から沖縄まで約百大学、百二十の映画部や映画サークルなどが呼びかけに応じた。信州大、静岡大、静岡県立大など中部地方の大学も参加した。

五月上旬に製作委員会を立ち上げ、ビデオ会議システム「Zoom」を使ってリモート会議を重ね、企画を練った。撮影は三密を避けて実施するよう注意を促した。

集まった作品は時代劇やSFなど個性に富む。大崎さんは「学生たちが率直な気持ちを表現した作品をぜひ見てほしい」と話している。

本編は動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開しQRコードで来年の劇場公開を予定している。



ユーチューブで公開しQRコードで来年の劇場公開を予定している。